

---

# 思い出の翼

馬路キレ子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

思い出の翼

### 【Nコード】

N8578E

### 【作者名】

馬路キレ子

### 【あらすじ】

僕らは飛ばす。誰もが皆感じてきた思い出の翼を。

飛行機を飛ばそう 遠くへ

あの広い空き地の先にあつた あの工場煙突の先の先まで

飛行機を飛ばそう 遠くへ

あの続く地平線の先にあつた あの時の僕らのままで

大人になつた僕らを 誰かが指差す

君たちは馬鹿だと 君たちは大人だろうと

大人になつた僕らを 誰かが笑いだす

君たちは無意味だと 君たちは大人げないと

知っているさ 僕らがやっていることが馬鹿なことぐらい

知っているさ 僕らがやったことが無意味なことぐらい

でも僕らは帰りたいかつた どうしてもあの頃へ

懐かしくて 楽しくて ほろ苦くて 浸りたくて 逃げ出したくて

僕らを指さして笑つた 大人な大人たちも

皆本当は帰りたいんだ 心の中で黙っているだけで

だから僕らは大人なのに飛行機を飛ばした あの頃と同じように

離せば悠々と空に向かって飛翔する 発泡スチロールの翼

ネクタイを緩めた白いYシャツを 汗まみれにしながら

思い出を確かめるように 空を飛ぶ木製のボディを見つめる

飛べ もつと飛べ  
遠くへ もつと遠くへ

僕らを縛るのは 口やかましい親の門限だけだった あの頃の記憶  
日の沈むのが遅い夏の日 日が暮れるまで遊んだ あの頃の記憶  
紙と木で出来た僕らの思い出が ゴム動力の飛行機に乗って飛んで  
ゆく

飛べ！ 飛べ！ 飛べ！  
高く！ 高く！ 高く！

でも 飛行機は僕らの思い出よりも 遠くへは飛ばなかった  
でも いつの間にか僕らの顔は 懐かしい笑いで満ち溢れていた

【終】

(後書き)

ゴム動力飛行機の翼の材質が発泡スチロールだと、なんか遠くまで飛ばないんですね。

あ、世代にもよるのかな。

ちなみに自分は懐古主義者です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8578e/>

---

思い出の翼

2010年11月20日16時17分発行